

# 日本ヘルスケア歯科研究会 — 3年間の歩み

藤木 省三\* Shozo FUJIKI 歯科医師 Private practice

神戸市灘区山田町 2-1-1 大西歯科 Ohnishi Dental Clinic 2-1-1, Yamada-cho, Nada-ku, Kobe-shi, Japan

\*日本ヘルスケア歯科研究会会長 President of the Japan Health Care Dental Association

## The Japan Health Care Dental Association; looking back these three years

The Japan Health Care Dental Association has celebrated full-three years since its launch. Taking this opportunity I would like to review our activities and their outcomes based upon our "Mission" we adopted at the time of establishment. Our Association does not merely seek for member's profit, but we are aiming; to assess and adjust our daily practice primarily and to consider "what the medicine should be" in order to serve people

maintain and enjoy "comfortable chewing", "conversation free from functional restraint" and "smiles that are filled with youthfulness and dignity". The Association's establishment itself and activities have influenced medicine and dental medical research in great deal, however, we can not deny that there are still tasks we could not complete satisfactory nevertheless adopting as objectives. *J Health Care Dent 2001; 3: 63-66.*

## ヘルスケア歯科研究会設立

設立趣旨に、「近代歯科医学は、科学の進歩とともに大きな発展を遂げたが、私たちは口腔疾患をこの地上からなくすという高邁な理想を忘れ、傷病による破壊の跡を人工的に修復することに大きな精力を注いできた。」「...疾病を未然に防ぐことが容易であるという歯科医療の可能性が、人々の目から隠されている。そのような事実を明らかにしたとき、果たして現実の歯科医療は受け皿になり得るだろうか」と謳われているように、当時の日本の口腔保健が十分健康ではないと認識し「患者利益の追求」つまり「口腔保健の改善」をめざして1998年3月1日に設立記念講演会および総会を行い「ヘルスケア歯科研究会」のスタートをきった。

設立にあたって本会の活動と使命として、「ヘルスケア情報の提供」「ヘルスケア歯科医学に関する臨床的研究」「医療環境の改善」「器具・材料の評価・報告」を掲げている。

## 3年間の歩み

### 1. ヘルスケア情報の提供

ヘルスケア情報には個々の会員向けの情報と歯科界および社会全般に

対する情報が含まれており、さらに情報の整理と問題の提起も含んでいるため、もっとも適した場と媒体を用いて情報の発信を行ってきた。

### ・学術講演会(表1)

口腔の健康を守り育てるためには、今の日本ではう蝕と歯周病の発症を抑えることが最も優先される課題だと考え、きわめて基本的な講演会を企画、運営してきた。その結果バイオフィルムとう蝕・歯周病のかかわり、う蝕とフッ化物に関する考え方、臨床疫学的重要性などの理解が得られ、目指すべき診療に関する結論としては、口腔の健康の維持には定期管理が有効であることが明らかにされた。今後いかにして定期管理を希望する人を増やし受け入れることができる環境を作り上げるかという次の課題が見えてきた。

「日本ヘルスケア歯科研究会」設立の目的は日本の口腔保健の改善であり、実現には個々の診療室だけではなく日本の歯科界の変革がなされなければならない。そのためにはヘルスケア会員以外の研究者、行政関係者などの協力を得なければ成し遂げることは不可能である。学術講演会を通じて多くのつながりができたことは大きな成果であり、今後さらに

表1 学術講演会の流れ

講演会名(日時・会場)	テーマおよび講演タイトル	
<b>設立記念講演会</b> 日時：1998年3月1日 会場：日本教育会館 一ツ橋ホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の意味論から医療を考える</li> <li>・患者の一望んでいること、知らないこと、知るべきこと</li> <li>・われわれは診療室で何をしているか？</li> <li>・健康を守り育てる医療を実践するために</li> </ul>	多田 富雄 大熊由紀子 柏田 聡明 熊谷 崇
<b>第1回 秋季学術講演会</b> 日時：1998年8月30日 会場：大阪(千里)よみうり文化センター	<b>「知ってるつもりのプラークコントロール」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何のためのプラークコントロールか</li> <li>・データと症例を通してプラークコントロールを考える</li> <li>・現代の臨床におけるプラークコントロールの考え方</li> </ul>	岡 賢二 熊谷 崇 恵比須繁之
<b>国際シンポジウム</b> 日時：1999年3月13, 14日 会場：日本青年館	<b>「カリエスフリーを育てる歯科医療」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・症例と臨床疫学データから語る</li> <li>・この四半世紀におけるカリオロジーの臨床への浸透 特にオランダの場合</li> <li>・世界各国特に欧米工業国におけるカリオロジーと医療制度</li> <li>・齲蝕の細菌学と病因論を整理する</li> <li>・初期齲蝕の脱灰・再石灰化のメカニズムを踏まえた診査法・ オブザベーション・予防処置など臨床の考え方</li> <li>・シンポジウム-初期齲蝕の診査と治療</li> </ul>	熊谷崇 J.M.ten Cate D.Bratthall D.Bratthall J.M.ten Cate 斎藤直之, 小林清吾, 千田彰, 河野正司
<b>第2回 秋季学術講演会</b> 日時：1999年10月10日 会場：岡山テルサ・テルサホール	<b>「住民の健康のために、診療室ですべきことは何か？」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スウェーデンの歯科医療政策-ヘルスケア・センターの歴史と活動 Lars G. Petersson</li> <li>・健康を守り育てる歯科医療を目指して</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	岡 賢二
<b>国際シンポジウム</b> 日時：2000年3月19, 20日 会場：東京 朝日ホール(有楽町マリオン)	<b>「健康を守り育てる歯科医療のために」</b> —カリオロジーとフッ化物に関するコンセンサス— 歯周病の全体像と歯周治療— <ul style="list-style-type: none"> <li>・フッ化物に関する専門家調査の結果から</li> <li>・カリオロジーを踏まえ、どのようにフッ素を応用していくか</li> <li>・わが国の専門家のフッ化物に関する認識の問題点</li> <li>・フッ化物に関するグローバルスタンダード</li> <li>・カリオロジーとフッ化物</li> <li>・臨床疫学と病因論から見た歯周病の全体像</li> <li>・スウェーデンにおける歯周治療の現状</li> <li>・臨床疫学データと長期経過観察から歯周治療を再考する</li> <li>・これからの歯周病検査と診断</li> </ul>	岡 賢二 熊谷 崇 小林 清吾 D.Bratthall J.M.ten Cate 岡 賢二 G.Bratthall 熊谷 崇 栗原 英見
<b>第3回 秋季学術講演会</b> 日時：2000年10月28, 29日 会場：新潟県歯科医師会館	<b>「歯周治療から始まる 成人の発症前コントロールへの道のり」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科診療所初診患者の歯周病罹患状況と定期管理の成果</li> <li>・新潟市住民の歯周病進行度</li> <li>・口腔のバイオフィルム感染症と全身状態とのかわり</li> <li>・診療室における健康を守り育てる歯科診療の実際</li> <li>・成人のサポータティブセラピーの実状-新潟地域の診療所調査</li> </ul>	岡 賢二 岸 洋志 吉江 弘正 本間彰一, 河野正清 日野 晃伸
<b>国際シンポジウム</b> 日時：2001年3月18, 19日 会場：砂防会館(シェーンバッハ・サボー)	<b>「歯科医療における患者利益」</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究会設立の趣旨に立ち戻って 設立趣旨からこれまでの活動を再評価してみよう ヘルスケア歯科研究会は自分の診療室をどのように変えたか 患者アンケートの目的・結果から</li> <li>2. 私たちの臨床は患者利益になっているか？ ・明確な患者利益の追求における臨床疫学の役割 ・自分で考え、自分で判断する ・バイオフィルム感染症の治療原則 ・症状もなく忙しい人の定期管理はできるか</li> <li>3. 歯科医療の近未来像と私たちが果たすべき役割 ・歯科医療サービスに社会が求めるもの</li> </ol>	藤木 省三 斎藤 直之 藤木 省三 P Hujuel 豊島義博, EBH研究会 花田 信弘 岡 賢二 M.Allukian

重要になるだろう。

探針使用，フッ化物の調査に関しては医療環境の改善の項目で述べる。

#### ・ニュースレター

年6回発行のニュースレターはすでに通算19号を数え，そのなかで海外論文の紹介から臨床のコツまで多岐にわたって情報を掲載した。これまでは運営委員，評議員中心で作成されてきたが，今後会員の声を広く集める企画が望まれている。

#### ・診療ツールなど企画品の開発

- ① 患者データ管理ソフト(ウイステリア，ウイステリア Photo)
- ② アポイント管理ソフト(アポイント管理職)
- ③ コンサルテーションシート
- ④ 説明用スライド(歯の病気のやさしい説明，カリオロジー総論，ペリオドントロジー総論)
- ⑤ 院内掲示用ポスターおよびリーフレット
- ⑥ 患者説明用ビデオ「う蝕と歯周病を予防する」

#### ・ヘルスケア歯科コース

教育研修を目的に，山形および大阪の運営委員により酒田および大阪で，基礎コース，実践コース，患者データ管理実習コースを開催してきた。今後は，事務局で管理し，東京で開催する。

#### ・ホームページの開設

(<http://www.healthcare.gr.jp>)

設立初期から，独自ドメインを取得し，広報と会員の情報交換に役立ててきた。

検索エンジンに登録した結果，歯科相談には一般からの問い合わせがかなりの数にのぼっている。しかし，本来の目的である，健康を守るための情報発信には力不足であり，今後の充実が期待される。さらには会員に有効なコンテンツの作成も計画中である。

#### ・市民フォーラム(2000年10月29日)

“「かしこい患者学」病気を見つける医療から，健康を守り育てる医療へ”をテーマに真壁伍郎氏(新潟大学医学部保健学科教授)と熊谷崇会員の講演が行われた。真壁伍郎氏からはこれからの医療は技術的な医療より健康に視点を置いた医学的ケアに変わるべきであるとのメッセージをいただいた。

う蝕，歯周病が予防可能な疾患であることが明らかになった今こそ，一般市民向けの様々な情報提供が求められている。本年7月には酒田市で市民フォーラムを開催する。

#### ・歯科診療に関するアンケート調査

個々の歯科医院が患者からどのように評価されているのかを知るために，評議員(および評議員候補)の診療所の来院患者を対象にアンケートを行った。詳細は本誌の別稿を参考にさせていただきたいが，回収率が平均56.87%(配布後2ヵ月半締切分)と患者の信頼度の高さが如実にあらわれた。

結果は各歯科医院によってばらつきがあるものの，健康維持のために歯科医院を利用した患者が平均でも半数近くを占め，そのほとんど全員が今後も続ける意思を明らかにしている。反面，今まで健康維持のために歯科医院を受診したことがない患者も多数おり，適切な情報がいきわたっていない現状も示している。

個々の歯科医院のデータを詳細に検討することによってその歯科医院の長所，短所が手に取るようになる。さらに多くの会員の歯科医院で調査を行えば，より一般的なデータが得られるとともに各会員が何をすべきか考えるきっかけになるにちがいない。

## 2. ヘルスケア歯科医学に関する臨床的研究

「そこで，これまでに積み上げられた成果を学ぶと同時に，臨床において生じた疑問や困難の一つひとつ解

決し、互いに確かめ共有するための協同作業に着手したい。そのために私たちは、臨床研究やその報告の新しい形を模索しなければならないだろう。広く臨床家や研究者、教育者が協力して、より現実的で予知性の高い方法を生みだし、人々に提供するように努力したい(設立趣旨)との言葉のように、日々の診療の結果を共有するため、最低限の基本資料を蓄積するデータベースソフト、『ウィステリア』が開発された。そこから多くの有益なデータが得られつつある。

#### ・日吉歯科診療所、岡歯科医院の疫学データ

過去の本会誌に詳しく掲載されているが、初診患者、定期管理患者のデータから様々な考察がされている。初診患者のデータからは歯科疾患実態調査、種々の地方自治体のデータと同様の口腔保健の問題点が明らかになっている。歯周炎に関しては喫煙によるリスクが再認識された一方、ハイリスクの割合は多くはなく、早期に診断できれば熟練を要する困難な処置ではなく、歯周デブライドメントを中心とした基本治療が最も有効で重要であることが示唆されている。

また、定期管理することで歯周炎による歯の喪失が確実に抑制できることが明らかになっている。

### 3. 医療環境の改善

カリエスフリーの永久歯列を育成する場合に診療所内の努力だけでは対応しきれない問題がある。とくに早期発見・早期治療により多くの歯が修復されている現実を改善するため、以下の調査、検討が加えられた。

#### ・「初期う蝕の診査における探針使用の考え方」調査および検討会(1998年)

学校歯科健診における探針使用の見直しを求める活動を精力的に行ったが、その結果、口腔衛生学会が見解を発表した。「初期う蝕診断」における探針の意義に関する作業検討部会にて、以下のように報告されている。

- ① う蝕の診断を単に検出手段と考えるのではなく診断・処置決定・その後の管理についてのシステムの一段階と位置づけるべき
- ② 公衆衛生における初期う蝕の診断は視診によるスクリーニングが望ましい
- ③ 臨床においては、う蝕が進行、停止、再石灰化など絶えず変化している Dynamic process であることを認識し、う蝕活動性の評価が重要である
- ④ 精密検査において歯科用探針はフィッシャーシーラントや保存修復処置に先行する行為に限定して使用すべきである
- ⑤ エナメル質に限局した齲窩が認められるう蝕(C1)は、積極的予防管理の適応とし、保存修復処置の対象としない

#### ・専門家および会員のフッ化物応用の理解に関する調査および報告(1999年)

フッ化物の応用に関する歯科医療専門家のコンセンサスを得るための調査事業を行った。同時期に日本歯科医学会の日本歯科医学会医療問題検討委員会フッ化物検討部会でも検討がされており、少なからず影響を及ぼしたものと考えられる。この答申により、う蝕予防のためにフッ化物を応用することの有効性と安全性が確認され論争に一つのピリオドが打たれた。

須田立雄(本会：科学顧問)検討委員会委員長は『日本歯科医師会雑誌』にて、「本年5月に発表された日本ヘルスケア歯科研究会フッ化物調査小委員会(委員長:岡賢二)の施行したフッ化物に関する専門家・会員の意識調査報告によれば、わが国の29の歯科大学・歯学部の教官の71.1%はこの事実を知っており、このような事態を招来したのは、“早期発見・早期治療のドグマ”と、“日常的にフッ化物が利用できる環境がわが国では不足しているためである”と考えている」のように本会の報告を引用している。

### 4. 器具・材料の評価・報告

#### ・ミュータンス菌の除菌

商品の評価・推薦には厳正・公平・客観的な判定が求められているため、個々の機器・器具・材料に関する評価事業は現在のところ行っていない。

### そしてこれから

設立後3年が経過し、「日本ヘルスケア歯科研究会」は歯科界に少なからず影響を及ぼした。予防を受け入れる環境も次第に整いつつあるように思われる。しかし、健康を守り育てる歯科医療を推し進めるためには課題も残されている。

歯科界の変革には歯科医師だけではなく他分野の協力が不可欠だといえながら、過去3年間に歯科衛生士、歯科技工士会員の声を反映できるシステムを構築できなかったことは大きな反省点である。最優先課題として対処しなければならない。

ここまでトップダウン方式で運営してきたが、今後は各会員の自主的な活動によって点から線、面へと広がることを期待されている。